

私たち集まりたいの！
「なかよし会」の活動

なかよし会を紹介します。会長の鈴木益枝さんは、被災を受け上地区に転居してきた方の一人です。鈴木さんは被災前から、先人の方々の支え合いの地域づくりの教えを大切に、活動をしてきました。転居してからも、「新たな土地で関係性をつくり、地域活動に参加することが自分の居場所になる。」と考え、なかよし会を立ち上げました。メンバーは8人が集まり、歌を歌いながら健康体操をします。また折り紙や手芸などもします。活動は民家を借用しましたが、その後高齢者福祉施設ホールへ場所を移しました。住民、入居者、職員とも交流を図り笑顔の輪が広がりました。活動の魅力をお伺いすると「目配り、気配り、こころ配りで会員同士お互いの足りない所を補い合うことができます。活動的になると笑顔が増え、元気になる。このことから健康寿命が長くなる。自由楽しく活動することが継続の秘訣です。」と話されていました。

第2部 在宅介護を体験して

在宅介護を体験して

佐々木 秀 雄 氏



我が家の在宅介護を振り返る

10年間介護の日々を共にした義父が亡くなって3年半。その半年後に当フォーラムの体験発表の機会を得た。義母と義父の16年間の我が家の在宅介護バトルを客観的に振り返るまたとない契機とすることができた。感謝、感謝です。

② 川柳創作
街に漁船
これが津波の
恐ろしさ
ランドセル
大きな夢を
背負っている

我が家が在宅介護の道を選んだのは、家族のために心血を注いできた義父の「古くて寒くてもこの家で暮らしたい」という切望、執念、そしてこれに応え支えてあげようとした私たち夫婦の判断、決意によるものでした。

厳しい読経の発生訓練、散歩しながらの川柳創作、露や柿の皮むき等、努力家で訓練好きの義父ならではの日々が昨日のこのように生き生きと甦ってきます。在宅介護が産み出してくれる生きる意欲への底知れぬエネルギーの大きさを、今改めてかみしめ、味わっています。

④ 散歩



障害があっても地域の中で幸せに暮らすことを願って

コミュニティー広場ふぁみりあ 佐藤 絵里 氏



障害児育児も7年目。まだまだ分からないことだらけの中でもいつも思うことは息子の幸せです。

当時、重い障害が残ると話された時の喪失感…周りは何気なく言った言葉にも勝手に落ち込む毎日。親として色々な葛藤があり息子のことを周囲に伝えていくことができませんでした。

でも、そんな私の気持ちが変わるきっかけとなったのは、沢山の葛藤を繰り返す中で息子の障がいを少しずつ受容出来たことが大きかったように思えます。明るい先輩ママ達の「大丈夫笑える日がくるから」の力強い言葉も励みになりました。

ふぁみりあの活動、支援してくださる方々との繋がり、勇気もち一步踏み出した先に息子をサポートしてくれる皆さんとの出会いもあり子育ての中で家族の支えとなっています。



一人倍手のかかる息子ですが、だからこそ「知ってもらうこと」「共に過ごすこと」で将来の息子の応援団が増えていけるよう、そして障害の有無に関係なく当たり前存在として地域の中で暮らしていける様これからも沢山の力を借りながら子育てしていきたいです。インクルーシブな地域になることを願って。